



東京アマデウス合唱団
第29回定期演奏会

ドイツ・バロックの精華

Schütz/Schein/Scheidt
und
Buxtehude/Bruhns

Tokyo Amadeus Chorus

同仁キリスト教会
2010年11月3日

PROFILE

指揮 水野 克彦



東京藝術大学卒業。
ピアノを滝崎鎮代子、クラリネットを千葉国夫、室内楽を細野孝興の各氏に師事。オルガンの手ほどきを今井奈緒子氏に受ける。
藝大バッハカンタータクラブに在籍中、小林道夫氏の薫陶を受ける。
日本オルガニスト協会会員。

Symphonia Fons Harmoniae

ヴァイオリンⅠ 海保あけみ



東京藝術大学卒業。ヴァイオリンを正岡絃子、山岡耕祐、日高毅の各氏に、室内楽を黒沼俊夫氏に師事。又、藝大バッハカンタータクラブにて小林道夫氏の指導を受ける。現在フリーの演奏家として、室内楽・オーケストラ等の演奏を中心に活動中。

ヴァイオリンⅡ 片桐 恵里



武蔵野音大付属高校卒業。東京藝術大学音楽学部卒業。同大学院修了。ヴァイオリンを掛谷洋三氏、浦川宜也氏に、室内楽を、ピュイグ・ロジェ女史、ルイ・グレーラー氏に師事。第四回埼玉県新人演奏会に出演。東京ハルモニア室内オーケストラのメンバー。

ヴィオラⅠ 深澤 美奈



第3回日本室内楽コンクール入選。1997年、東京藝術大学を経て同大学院を修了。中馬敬子、浦川宜也、河合訓子、菅沼準二の各氏に師事。オーケストラ リベラ クラシカのメンバー
モダン、バロックの様々なオーケストラにて活躍中。

ヴィオラⅡ 大竹 奏



東京音楽大学器楽科卒業後、オランダ、フランス、イギリスにて研鑽を積む。2004年帰国後、室内楽やオーケストラにて活動中。また、バロックヴィオラを古楽アンサンブルを通じて学ぶ。これまでヴァイオリンを澤一樹、瀬戸瑤子、T・クリスチャン、H・クレバースの各氏に、ヴィオラを大島路子、バロックアンサンブルをマリア・ガーナー、ジュリア・グリフィンの各氏に師事。

チェロ 伊藤恵以子



東京藝術大学卒業。同大学院博士課程修了。
チェロを三木敬之、レーヌ・フラショー、倉田澄子の各氏に師事。
パリ・エコールノルマルで学ぶ。第48回日本音楽コンクール入選。
Ensemble Delice のメンバー。

オルガン 堀江 和子(練習ピアニスト)



武蔵野音楽大学短期大学部ピアノ科卒業。
キリスト教音楽学校パイプオルガン科卒業。同研究科修了。
ピアノを水本雄三、野村文子、オルガンを高橋靖子の各氏に師事。
茗荷谷キリスト教会オルガニスト・聖歌隊伴奏者。日本オルガン研究会会員。



本日はお忙しい中をご来場賜り、厚く御礼申し上げます。

今年は、「ドイツ・バロックの3S」と言われる3人の作曲家「シュッツ、シャイト、シャイン」と、2人のBのつく作曲家「ブクステフーデ、ブルーンス」から名曲を選び、「ドイツ・バロックの精華」として演奏する事と致しました。

2000年1月から11年間、水野先生の懇切なご指導と、練習ピアニストの堀江和子様のご協力を戴き、さらには海保先生のオーケストラの素晴らしい伴奏のご援助を頂き、団員の辻村が苦心して選んだ名曲を今回も何とか演奏出来ますことは、団員一同にとって、この上ない喜びであります。

更に本日ご来場の皆様方からの暖かいご支援と励ましに支えられて、この演奏会を開催できる事を嬉しく思っております。

今回は、昨年と替わった場所の「同仁キリスト教会」の聖堂の雰囲気の中で、「5人の作曲家」によるドイツ・バロックのアンサンブルを楽しんで頂けたら幸いです。

東京アマデウス合唱団 団長 柿沼 誓

PROGRAM

ドイツ・バロックの 精華

ハインリヒ・シュッツ

Heinrich Schütz (1585-1672)

Die Worte der Einsetzung des heiligen Abendmahls (SWV423)

聖なる晩餐式設定の御言葉

Dank sagen wir alle Gott (SWV425)

私たちは皆、神に感謝を述べます

Das Benedicite vor dem Essen (SWV429)

食前の祈り

Das Deo gratias nach dem Essen (SWV430)

食後における神への感謝

ヨーハン・ヘルマン・シャイン

Johann Hermann Schein (1586-1630)

Singet fröhlich Gotte

歓びつつ神に歌え

ザムエル・シャイト

Samuel Scheidt (1587-1654)

Gott ist mein Licht und Seligkeit

神は私の光であり至福です



休 憩



ディートリヒ・ブクステフーデ

Dietrich Buxtehude (1637-1707)

Was frag ich nach der Welt (BuxWV104)

私は世に何を求めることがあるろうか

Missa brevis (BuxWV114)

小ミサ曲

ニコラウス・ブルーンズ

Nicolaus Bruhns (1665-1697)

Die Zeit meines Abschieds ist vorhanden

今や我が別れの時が訪れた

Anonymus · Ältere Zuschreibung:

作者不詳:

ディートリヒ・ブクステフーデ

伝 *Dietrich Buxtehude (1637-1707)*

Magnificat (BuxWV Anhang1)

マグニフィカト BuxWV 補遺1

(選曲 辻村順子)

ドイツ・バロック音楽の精華

ドイツでは Bach、Beethoven、Brahms が「三大 B」といわれている。これは察するに、各々がバロック、古典派、ロマン派を代表する作曲家ということであろう。では「三大 Sch」は誰を指すかご存知であろうか。 — 「シンボル愛好癖のあるドイツ音楽学者たちの言うこと」とシュッツの伝記を書いたフランスの音楽学者 Roger Tellart＝ロジュ・テラールは少し皮肉っているが — Heinrich Schütz(1585-1672)、Johann Hermann Schein(1586-1630)、Samuel Scheidt(1587-1654)である。しかし、こちらのほうはテラールの皮肉にも関わらず「三大 B」よりも深い意味があるように思う。すなわちシュッツ、シャイン、シャイトは誕生年も極めて近い同時代人であり、ドイツ中部のザクセン地方で育ち、働き、友人同士であった。そしてこの三人はドイツ・バロック音楽の発展に大いなる寄与をした。

三人の中でもハインリヒ・シュッツは最も長生きをしたので作品の数も多く、当時のドイツの音楽界に長く影響を与え続けた。彼はヴェネツィアの Giovanni Gabrieli＝ジョヴァンニ・ガブリエーリに師事をして、既にイタリアでは頂点に達していた対位法を学ぶ。そして、新しく興ったオペラ芸術の分野で大活躍をしていた Claudio Monteverdi＝クラウディオ・モンテヴェルディから大きな影響を受けて帰国した。

ところで、ルネッサンスまでの音楽を支配していた対位法を一言で説明するならば「複数の旋律を同時に重ねた時に良好な響きを得られる、最適な旋律を形作るための技法」といえる。しかし合唱音楽の場合はこの対位法の特性が災いして、同時に歌われる複数の歌詞が明瞭に聴き取れないという傾向が無きにしもあらずである。ところが1600年ごろに創成されたオペラでは、言葉の発音を際立たせて意味と情感を直感的に伝えたいという要求から、従来の対位法とは根本的に異なった表現法であるモノディーという技法が確立された。モノディーでは、語るような節回しが歌詞に付けられ、簡素な和音で伴奏されていく。音楽に言葉がではなく、言葉に音楽が従うのである。

シュッツの最も重要な業績の一つは、モノディー技法をドイツ語に適用したことである。それゆえにシュッツの音楽とドイツ語は決して切り離すことができない。ドレーズデン聖十字架合唱団の指揮者 Martin Flämig＝マルティーン・フレーミヒ教授は、かつて東京で開かれた公開講座で「バッハの声楽曲は日本語の訳詞をほどこしても歌うことができる。しかしシュッツの作品にドイツ語以外の言葉をつけると音楽を破壊してしまうことになる」という趣旨の指導をされた。だとすれば、つきつめればドイツ語を母語とする者でなければシュッツの作品は演奏不可能ということになる。我々、東京アマデウス合唱団は、もとよりドイツ語に堪能な者は一人もいない。その点からも満足な演奏ができないであろうことを予めお詫びしておかねばなりません。しかしそうは言っても、シュッツの音楽の不思議な魅力に取り憑かれた我々は、無理と承知の上で敢えて歌わせていただきます。どうぞ寛容な心でお聞きください。

「聖なる晩餐式設定の御言葉 シュッツ作品番号(以下 SWV)423」「私達は皆、神に感謝を述べます SWV425」「食前の祈り SWV429」「食後における神への感謝 SWV430」は1657年に出版された「十二曲の教会聖歌曲集」に集録されている。この曲集は9曲からなるドイツ語によるミサ曲

と3曲の食卓の祈りで構成された簡素な小品集である。この曲集で彼は再び、いにしへの対位法に戻っている。

87歳という長寿を全うしたシュッツに比べて病弱であったヨーハン・ヘルマン・シャインは46歳で亡くなっている。しかし才能豊かなシャインはシュッツがあまり手がけなかった世俗音楽の作曲にも力を注いだ。あたかもシュッツの遣り残した分野を補完しているかのようだ。(もともと、シュッツがまったく世俗曲を作らなかつたわけではなく、1760年におきたドレーズデン宮廷図書室の火災で焼失してしまった多くの作品の中には、いくばくかの世俗曲も含まれていたと思われる)

もう一つ興味深いのは、シャインの経歴がバッハのそれによく似ているという点である。シャインはヴァイマルの宮廷楽長をへた後にライプツィヒ聖トーマス教会カントル兼ライプツィヒ市音楽監督となった。バッハも約100年後にヴァイマル宮廷に勤め、その最期はトーマスカントル兼音楽監督であった。さらに、このような表面的な類似だけでなく、才能に関わる本質的な点でもシャインとバッハは似ている。すなわち、シャインとバッハは一生涯をドイツで過ごす境遇にあったにも関わらず、イタリア音楽の様式を身につけたのである。シュッツがイタリアで修行することができたのと対照的だ。シャインはシュッツやバッハに勝るとも劣らない天才であった。「歓びつつ神に歌え」は1615年出版のモテット集「Cymbalum Sionium＝シオンのシンバル」に納められている。

シュッツとシャインは教会音楽家としてオルガン演奏も巧みであったであろうが、両者のオルガン音楽は今日に伝えられていない。しかしザームエル・シャイトは多数のオルガン作品を残した。それもそのはず、当時もっとも有名なオルガニストにして教師であったアムステルダムの Jan Pieterszoon Sweelinck＝ヤン・ピーテルスゾーン・スウェーリンクにシャイトは師事したのである。シャイトのオルガン作品は当時から有名であった。なかでも3巻からなる「Tabulatura nova＝タブラトゥーラ・ノヴァ」は重要なオルガン作品である。

もちろん彼は声楽作品も多く作曲しており、1620年の「Cantiones sacrae＝カンツィオ・サクラ集」や1631年以降に発表された4巻からなる「Geistliche Konzerte＝教会コンツェルト集」がある。「神は私の光であり至福です」は1640年に出された教会コンツェルト集の第4巻に納められている。

「三大 Sch」は彼等の人生において三十年戦争の惨禍という、共通する苦悩を味わっている。その戦争は、彼等の働き盛りの時期に重なっている。戦争がなかったら彼等はずっと大きな業績を残せたのではないか、そんな思いを抱かずにはいられない。

さて、「三大 Sch」がドイツ・バロック音楽の前期を代表するとすれば、後期の代表は「三大 B」であろうか。もちろん初めに挙げたバッハ、ベートーヴェン、ブラームスではない。単なる思いつきなのだが Dietrich Buxtehude (1637-1707)、Nicolaus Bruhns (1665-1697)、Johann Sebastian Bach (1685-1750) である。

ディートリヒ・ブクステフーデはスウェーリンクの流れを汲む北ドイツ・オルガン楽派の巨匠であり、オルガン作品におけるバッハ以前の最大の作曲家である。彼は40年近くに渡って北ドイツのハンザ都市・リューベックの聖マリア教会オルガニストの職にあった。聖マリア教会の大オルガンは北ドイツ一帯で最も有名な楽器であり、足鍵盤のストップが充実していた。それゆえシャイトの

オルガン作品と比べると、ペダルの技巧的な使用が顕著である。また大胆な即興性を強調した「stylus fantasticus＝スティルス・ファンタスティクス『幻想様式』』と呼ばれる表現法が特徴であり、バッハにも影響を与えた。

ブクステフーデの声楽作品は 120 曲あまりの宗教曲が伝えられており、ほとんどが教会カンタータである。「私は世に何を求めることがあろうか」ブクステフーデ作品番号(以下 BuxWV)104』は有節歌曲の変奏形式で作曲され、詩はドイツの詩人 Balthasar Kindermann＝バルタザール・キンダーマンの「Das Buch der Redlichen＝誠実な人々の本 1664 年」から採られている。一方、1675 年以前に成立したと考えられる「小ミサ BuxWV114」はモンテヴェルディによって「prima pratica＝第一作法」とよばれた厳格対位法 — シュッツがヴェネツィアでガブリエーリに学んだ技法である — によって作曲されている。

ブクステフーデには一人の天才的な弟子がいた。ニコラウス・ブルーンスである。ブルーンスはオルガンとヴァイオリンの巨匠であった。オルガンのペダルで伴奏を弾きながら同時にヴァイオリンを演奏した(さらに同時に歌ったとも)という逸話が残っている。しかし残念なことに 32 歳になる前に世を去ってしまった。「このような卓越した巨匠、そして忍耐強い人はもっと長生きするべきではないか『ブルーンス生誕 300 年記念論文集より』』と当時の人々も早すぎる死を惜んだという。

短い生涯ということもあって、残されたブルーンスの作品は少ない。4 曲の完成されたオルガン曲と 12 曲の教会カンタータが伝えられているだけである。ブルーンスは、シュッツが作り出した教会コンツェルトと世俗音楽のためのマドリガル様式を教会カンタータにおいて統合させた。「今や我が別れの時が訪れた」はテキストを通作したコンツェルト様式で書かれている。

ところで、ブクステフーデ作と伝えられる「マグニフィカト BuxWV 補遺 1」だが、この曲の作者が誰であるか実際のところは判明していない。ドイツの音楽学者でブクステフーデの研究者であった Bruno Grusnick＝ブルーノ・グルスニックがこの曲を 1931 年に初めて出版したときにブクステフーデ作としたのだが、今日の研究では疑われている。リューベック聖マリア教会におけるブクステフーデの前任者であった Franz Tunder＝フランツ・トゥンダーが本当の作者だとする説や、シュッツの弟子の世代の誰かであるという見方もある。しかし何れにしてもブクステフーデ周辺の未だ知られざる巨匠の作には違いない。グルスニックは曲の成立年代を 1674 年以前としている。

さて、Albert Schweitzer＝アルベルト・シュヴァイツァーは「かくしてバッハは一つの終局である。彼からはなにもも発しない。いっさいが彼のみを目指して進んできたのである」と言い切った。同じように「ドイツ・バロック音楽はシュッツに始まりバッハに大成された」とも言えるかもしれない。しかし、こうした断言はいささか極端すぎると思う。ドイツ・バロックの音楽史を少し詳しく紐解けば、重要で個性豊かな天才音楽家達が各地で活躍する姿を見いだすことができるであろう。そして、それぞれが自分の音楽的成果を次世代へ受け渡していくさまは大河の流れのようであり、巨匠達の創り出した作品の精華がアルプスの連峰のように連なるのである。

水野克彦

歌詞 大意

水野克彦

Heinrich Schütz

ハインリヒ・シュッツ

Zwölf Geistliche Gesänge 十二曲の教会聖歌集より

Die Worte der Einsetzung des heiligen Abendmahls

聖なる晩餐式設定の御言葉 SWV423 (ルカによる福音書 / 22章19、20節)

第一部

私たちの主イエス・キリストは裏切られるその夜、

パンを取って感謝しつつ裂き、弟子達に与えて言われた。

「取って食べよ。これはあなた方のために与えられる私の身体である。

私の記念としてこのようにせよ」

第二部

同様に、晩餐の後に杯も取って感謝しつつ弟子達に与えて言われた。

「皆、取って杯から飲め。この杯は私の血による新しい契約である。

この血はあなた方の罪の赦しのために流されるのである。

あなた方は飲むたびに私の記念としてこのようにせよ」

Dank sagen wir alle Gott

私達は皆、神に感謝を述べます SWV425 (ザクセンで歌われていたドレーズデン讚美歌集より)

私達は皆、我等の神なる主キリストに感謝を述べます。キリストはその御言葉で私達を教え導き、その血で悪魔の支配から私達を救われました。

私達は皆、天使達と共にキリストを誉め讃える歌声の響きをあげよう。

天では神に讚美あれ。アーメン。

Das Benedicite vor dem Essen

食前の祈り SWV429 (ザクセンで歌われていたドレーズデン讚美歌集より)

第一部

すべてのまなこはあなたを待ち望みます、主よ。

あなたは折々に、彼等に食物を与えられます。

あなたは柔和な手を広げて、

生きるすべてのものを喜びで満ち足らせられます。

第二部 (主の祈り)

天におられる私達の父よ。

あなたの御名が崇められますように。

あなたの御国が来ますように。

あなたの御心が天で行われるように地でも行われますように。

私達の日々のパンを今日もお与えください、主よ。

私達は、自分たちに罪を犯した者達を赦します。同様に私達が犯した罪をもお赦してください。

私達を誘惑に陥らせず、悪よりお救いください。

御国、御力、御栄は永遠にあなたのもものだからです。アーメン。

第三部

主なる神よ、天の父よ、私達を祝してください。

そして、あなたからのこの賜り物も祝してください。

これらは、あなたの寛大なご好意により私達の主イエス・キリスト、
あなたの愛される御子を通して受けたものです。アーメン。

Das Deo gratias nach dem Essen

食後における神への感謝 SWV430 (ザクセンで歌われていたドレーズデン讚美歌集より)

第一部

主に感謝せよ。主はこのうえなく親切であり、そのご好意は限りなく続く。

彼はすべての肉なる者に食べ物を与え、家畜と、
主を呼び求めるカラスの子達にも餌をお与えになる。

(ヨブ記 / 38 章 41 節)

主は馬の強さを喜ばれず、誰の脚も御心に叶わない。

(詩篇 / 147 篇 10 節)

主は、主を恐れ敬い、そのご好意を待つ人達をお喜びになる。

第二部 (主の祈り)

天におられる私達の父よ。

あなたの御名が崇められますように。

あなたの御国が来ますように。

あなたの御心が天で行われるように地でも行われますように。

私達の日々のパンを今日もお与えください、主よ。

私達は、自分たちに罪を犯した者達を赦します。同様に私達が犯した罪をもお赦してください。

私達を誘惑に陥らせず、悪よりお救いください。

御国、御力、御栄は永遠にあなたのものだからです。アーメン。

第三部

私達は、あなたの愛される御子、私達の主イエス・キリストを通して、

すべてのあなたからの賜り物とお恵みをあなたに感謝いたします、主なる神、天の父よ。

あなたがとこしえに生きて治められますように。アーメン。

Johann Hermann Schein

ヨーハン・ヘルマン・シャイン

Singet fröhlich Gotte

歓びつつ神に歌え (詩編 / 81 編 1~5 節)

歓びつつ神に歌え。神は我等の力である

ヤコブの神に歓呼の声をあげよ。

讚美歌を手に取れ。太鼓と柔らかな音色の堅琴とプサルテリウムを渡せ。

新月の我等が仮庵の祭でラッパを吹け。

なぜなら、そうするのがイスラエルのしきたりであり、ヤコブの神の定めだからである。

Samuel Scheidt
ザームエル・シャイト

Gott ist mein Licht und Seligkeit
神は私の光であり至福です (詩編 / 27 編)

神は私の光であり至福です。私はただ神だけに信頼しよう。
神は教え諭されます、すべての人々は神の御稜威に信頼すべきであると。
約束してくださったように、神は苦しみから助けてくださる、正しき神よ。
わたしは、たとえ死の苦しみが迫ろうとも、それでも神に望みをおこよう。
なぜなら、神のお慈悲は常にすべての人達に開かれているからです。

Dietrich Buxtehude
ディートリヒ・ブクステフーデ

Was frag ich nach der Welt
私は世に何を求めることがあろうか BuxWV 104 (パルタザール・キンダーマンの「誠実な人々の本 1664年」より)

1.
世とそのすべての財宝に私は何を求めることがあろうか、
ただあなたのみを、主イエスよ、喜ぶことができるならば。
私はあなたを唯一、喜びとして思い浮かべました。
あなたは私の平安です。私は世に何を求めることがあろうか。
2.
世は空中に消えてしまう煙のようだ、
そして短時間しか持たない影のようだ。
しかし、すべてが壊れ、倒れる時にも私のイエスは変わらない、
イエスは私の強い岩である。私は世に何を求めることがあろうか。
3.
世は高く思い上がった人々のところに誇りと名誉を探し求めるが、
それらはどうせ、すぐに滑り落ちてしまうような物であるということは一度も考えない。
しかし私の心が賞賛に値すると思うのは、
ただイエスだけ。私は世に何を求めることがあろうか。
4.
世は栄誉と財産を探し求めるが、むしろ休まらない。
そこでまずは箆筒の中に銭を溜め込むがいい。
私はもっと良い財産を知っている。私の心が向かうのは
ただイエスだけ、私の宝よ。私は世に何を求めることがあろうか。
5.
あたかも策略で世の栄誉がねらわれるかのように世が見下される、
そのような場合には、世は心配する。
私はキリストのはずかしめを身につけよう、もし彼が永く快く思ってくださいるならば。
私の救い主が私にとって誇りであるなら、私は世に何を求めることがあろうか。
6.
世はその欲望をとては満足できない。
世はいつか恐らく、本当に欲望と引き換えに天国を引き渡すであろう。
別の者は欲望を止める。その者は自らを価値ある者としなない。

私は私の神を愛する。私は世に何を求めることがあろうか。

7.

即座に世は消えるにちがいない。

世の名声はまったく死に抵抗できない。

財産は取り去られ、すべての欲望は衰える。

イエスが私をお捨てにならない限り、私は世に何を求めることがあろうか。

アレルヤ。

Dietrich Buxtehude

ディートリヒ・ブクステフーデ

Missa brevis

小ミサ曲 BuxWV114

Kyrie

憐れみの讃歌

主よ、憐れみたまえ。キリストよ、憐れみたまえ。主よ、憐れみたまえ。

Gloria in excelsis

栄光の讃歌

天のいとも高いところでは御神に栄光。

地では善意の人々に平和。

わたくしどもはあなたを誉めます。

わたくしどもはあなたを祝福します。

わたくしどもはあなたを敬慕します。

わたくしどもはあなたを崇めます。

わたくしどもはあなたへ感謝をあらわします、

あなたの大いなる栄光のゆえに。

神なる主にして天の王、

全能の御父なる神よ。

主なる一人子イエズス・キリストよ。

神なる主よ、神の子羊、御父の御子。

世の罪を担われるお方、

わたくしどもを憐れみたまえ。

世の罪を担われるお方、

わたくしどもの哀願を取り上げたまえ。

御父の右に座られるお方、

わたくしどもを憐れみたまえ。

あなたは唯一の聖なるお方なのでから。

あなたは唯一の主なのでから。

あなたは唯一の至高なるお方なのでから、

イエズス・キリストよ。

聖なる御霊と共に、御父なる神の栄光のうちに。

アーメン。

Nicolaus Bruhns

ニコラウス・ブルーンス

Die Zeit meines Abschieds ist vorhanden

今や我が別れの時が訪れた (テモテへの手紙 二 / 4章6~8節)

今や我が別れの時が訪れた。

私は立派に戦い、走りとおし、信仰を守った。

これからさき、私には義の冠が与えられるのである。

公正な審判者である主が、かの日、私に王冠を授けてくださるであろう。

しかし私一人でなく、また、主が来られるのを喜ぶすべての人々に授けてくださるのだ。

Dietrich Buxtehude

ディートリヒ・ブクステフーデ

Magnificat

マグニフィカト BuxWV 補遺1 (レカによる福音書 / 1章47~55節)

1.

リトルネッロ

2.

私の魂は主を崇めます。

私の霊は躍り上がって喜びました、

私を救って下さる神様のふところ。

なぜなら神様が、ご自分のはしためであるこの私の慎み深さを顧みて下さいましたから。

ご覧なさい、今から私のことを祝福された女だということでしょう、いつの世の人々も。

力あるお方が偉大な御業を私になり、

それゆえ、そのお方の御名は神聖であるとされたのですから。

そして神様は憐れみの子々孫々に渡って

神を畏れる者達にかけられます。

3.

リトルネッロ

4.

神様は御腕の力をふるい、

お心にある怒りの思いのままに、高慢な者どもを散らされました。

神様は力に頼む者どもをその座から引きずり降ろし、へりくだる人達を高められました。

神様は飢えている人々を良い物で満ち足らせ、富める者どもは手ぶらのままに追い出されました。

神様はそのしもべイスラエルをお助けになり

心に留めて憐れんで下さいました。

神様が私たちの先祖にお告げになったとおり、

アブラハムとその子孫へ代々に渡って。

5.

リトルネッロ

6.

父に栄光あれ、子に栄光あれ、そして聖霊に栄光あれ。

はじめにあったとおり、今も、常に、代々限りなく。

アーメン。

東京アマデウス合唱団のご案内 (2010.11 現在)

少人数に適したルネッサンスやバロック時代の宗教曲を積極的に取上げて、他の合唱団ではあまり歌うことの無い隠れた名曲を歌ってみたい方をお誘いしております。

今後の活動予定は下記の通りですが、少人数のバロックのアンサンブルと一緒に楽しみたい方や興味のある方が居られましたら、是非一度下記の練習会場にお出掛け頂き、見学だけでも大歓迎ですので練習状況等をご覧頂きたいと願っております。

下記ホームページをご参照の上、「護国寺」の同仁キリスト教会内の「美登里幼稚園」へお出掛けいただきたく、団員一同期待してお待ちしております。

(事務局 大久保ルミ子)

<http://homepage2.nifty.com/Amadeus/>

来年の演奏会「創立 30 周年記念 第 30 回定期演奏会」

「日時」 2011 年 10 月 10 日(月・祝)15 時開演/14 時半開場 (予 定)

「会場」 聖母病院チャペル(新宿区中落合)

演奏曲目(予 定)

歴代「トーマス・カントール」の曲

(Sethus Calvisius, Tobias Michael, Sebastian Knüpfer,

Johann Kuhnau, Johann Adam Hiller, Johann Gottfried Schicht 等)

参加ご希望の方へ(下記へ電話等でご連絡の上、お出で下さい)

お問い合わせ先 辻村 順子 048-476-4056

大久保ルミ子 03-3960-7714

練習日 毎週水曜日 午後 6 時半～9 時
練習場所 同仁キリスト教会美登里幼稚園 2F
指導者 水野克彦
会費 月額 5 千円(学生半額)
入会金 1 千円

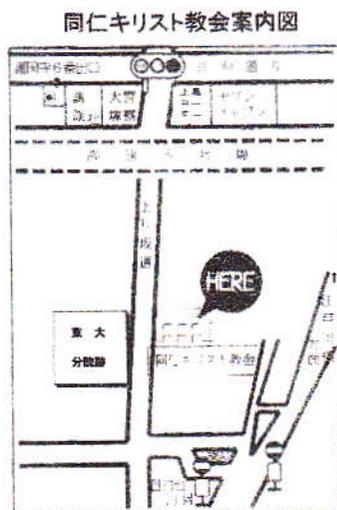
(練習場所への交通案内)右図参照

* 地下鉄有楽町線

「護国寺」駅下車 6 番出口から徒歩 5 分

* JR 山手線「目白」駅よりバスで

「目白台 3 丁目」下車 徒歩 3 分



演奏会の記録

	開催年月	主な演奏曲目	指揮	会場
第1回	1981.02	モーツァルト(レクイエム<ジュスマイヤー版>)	寺村博司	石橋メモリアル
第2回	1981.11	ヘンデル(メサイア)	渡辺央己	中央会館
第3回	1982.11	フォーレ(レクイエム)、ジョスカン・デ・プレ、シュッツ	鈴木 優	東京カテドラル
第4回	1983.09	モーツァルト(戴冠式ミサ)、ヴィクトリア	黒岩英臣	東京カテドラル
第5回	1984.09	モーツァルト(レクイエム<ジュスマイヤー版>)	黒岩英臣	東京カテドラル
第6回	1985.10	J.S.バッハ(カンタータ106)、ブクステフーデ、ハスラー	宮本昭嘉	石橋メモリアル
第7回	1986.10	モーツァルト(グローセミサ)、ヴィクトリア	鈴木 優	練馬文化センター
第8回	1987.10	シュッツ、ハスラー(ミサ・セクンダ)	鈴木 優	石橋メモリアル
第9回	1988.12	モーツァルト(ヴェスペレ 339)、J.ハイドン	齋藤明生	駒場エミナース
第10回	1989.11	モーツァルト(レクイエム<バイヤー版>)	齋藤明生	練馬文化センター
春の小演奏会	1990.05	ジョスカン・デ・プレ(パンジェ・リングワ)、ハスラー	齋藤明生	石橋エオリアン
第11回	1991.02	モーツァルト(リタニア 243)、J.M.ハイドン(ヴェスペレ)	齋藤明生	石橋メモリアル
第12回	1991.11	モーツァルト(ドミニクス・ミサ、サンクタ・マリア・マーテル・デイ)	齋藤明生	川口リリアホール
第13回	1992.11	シャルバンティエ(真神のミサ)、シュッツ、ブクステフーデ	齋藤明生	石橋メモリアル
第14回	1993.11	モーツァルト(ミサ・プレヴィイス 275)、アルプレヒツベルガー	齋藤明生	石橋メモリアル
15周年記念	1994.11	モーツァルト(レクイエム<ドルース版>)、渋谷混声と合同	齋藤明生	新宿文化センター
第15回	1995.10	J.S.バッハ(カンタータ 182)、ブクステフーデ	齋藤明生	石橋メモリアル
第16回	1996.11	モーツァルト(ヴェスペレ 339)、アルプレヒツベルガー	齋藤明生	石橋メモリアル
第17回	1997.10	モーツァルト(ミサ・ソレムニス 337、テデウム・ラウドムス)	齋藤明生	石橋メモリアル
第18回	1998.10	J.S.バッハ(カンタータ 61・196)、D.スカルラッチェ	齋藤明生	石橋メモリアル
第19回	1999.10	ラインベルガー(スタバト・マーテル)、J.M.ハイドン	齋藤明生	石橋メモリアル
斎藤先生追悼	2000.07	ハスラー、メンデルスゾーン、ホミリウス	水野克彦	同仁キリスト教会
クリスマス	2000.12	四つのアヴェマリア(アルガム、ジョスカン・デ・プレ、ヴィクトリア、ハスラー)	水野克彦	旧上野奏楽堂
第20回	2001.11	モーツァルト(トリニターティス・ミサ)、J.ハイドン	水野克彦	石橋メモリアル
第21回	2002.10	ドイツ・バロック(J.C.F.バッハ、シュッツ、ブクステフーデ)	水野克彦	所沢文化センター
第22回	2003.11	ラインベルガー(スタバト・マーテル)、アルプレヒツベルガー	水野克彦	ルーテル市谷センター
第23回	2004.10	D.スカルラッチェ、パレストリーナ、モンテヴェルディ	水野克彦	カトリック麻布教会
第24回	2005.11	シュッツ、テレマン、ブクステフーデ(カンタータ)	水野克彦	カトリック麻布教会
第25回	2006.11	レヒナー(受難曲)、ゼレンカ(レスポンソリア)	水野克彦	カトリック麻布教会
第26回	2007.10	ブクステフーデ(カンタータ 6曲)	水野克彦	カトリック麻布教会
第27回	2008.11	5人のヨーハン(J.S.バッハとその親戚 4人)	水野克彦	カトリック麻布教会
第28回	2009.10	メンデルスゾーン、J.ハイドン(レスポンソリア)	水野克彦	カトリック麻布教会
第29回	2010.11	シュッツ、シャイン、シャイト、ブクステフーデ、ブルーンズ	水野克彦	同仁キリスト教会
第30回	2011.10	歴代「トーマス・カントール」の曲(予定)	水野克彦	聖母病院チャペル

東京アマデウス合唱団

Sop 辻村 順子、中西亜紀子、平石 幸枝、松木 香織

Alt 伊藤 正子、大久保ルミ子、大友 美佐、

宮崎 米子、*堀江 和子

Ten 小沢 仁、片岡 繁

Bas 柿沼 晝、野口 碩

(*は、兼オルガン伴奏)



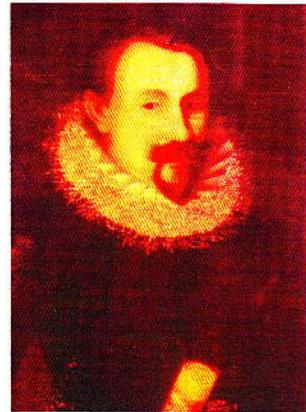
第 28 回定期演奏会(2009.10.12) カトリック麻布教会



Heinrich Schütz
(1585-1672)



Samuel Scheidt
(1587-1654)



Johann Hermann Schein
(1586-1630)



Dietrich Buxtehude
(1637-1707)

SINCE 1980

Collegium Amadeus Thonus